

晴海地区まちづくり協議会

1. 日時

令和5年9月25日（月）午後6時30分～午後7時25分

2. 場所

月島社会教育会館 晴海分館 アートはるみ 地下1階ギャラリー

3. 出席者

[構成員]	29人
[都・区関係者]	51人
[オブザーバー]	11人
計	91人

4. 議事等

（議事）

- | | |
|------------------------------------|-------|
| (1) 晴海五丁目における新たな歩行者等のネットワークの形成について | 【資料1】 |
| (2) 晴海五丁目西地区プロローグイベントについて | 【資料2】 |

5. その他

6. 質疑応答

《議事（1）》

①資料1のスケジュールについて、施設整備には3～4年かかるようだが、なぜこれだけ時間がかかるのか。

⇒現在、港湾局用地については晴海テラス及び晴海レジデンスの前面道路の盛土工事が実施されている。盛土工事が完了した後、令和7年度に予定している詳細設計の中で、ボーリング調査など土地を取得するための準備を行い、用地取得を行いたいと考えている。そのため、工事着手は最短で令和8年度になるものと考えている。（中央区環境土木部）

②街角広場とはどのようなものか。

⇒街角広場について、道路用地として取得するものではあるが、平面的な広場用地を確保して、緑の空間を作りたいと考えている。詳細は今後行う基本設計の中で、ニーズも考えながら検討していきたい。（中央区環境土木部）

③街角広場は、公園という理解でよいか。

⇒街角広場というのは、道路用地内の余裕があるスペースを、緑化や休憩できるスペースとして活用するもので、これまでも区の事業として取り組み、区内の所々に整備してきたものである。道路内の緑地的な広場スペースと捉えていただければと思う。（中央区環境土木部）

④歩行者等のネットワーク形成を図るとのことだが、今後は歩行者と自転車の共存が大事だと考えている。築地大橋のように自転車が乗れるようなエレベーターの設置等がバリアフリーの観点から必要だと思うが、検討されているか。

⇒区道836号線と環状第二号線の高低差が一つの課題にある。バリアフリーの観点から、エレベーター等の設置についても検討することを考えている。また、スロープ等を整備し、歩行者と自転車の共存を行うことにより、歩行者専用道路である朝潮小橋への自転車流入抑止を図っていきたい。(中央区環境土木部)

⑤勝どき駅方面に向かうことを考えると、ドウ・トゥール側からも環状2号線の歩道に上がれるようになると便利だと思うが、ドウ・トゥール側についてもエレベーター等の設置は考えているか。

⇒現在はそのような考え方はない。今後基本設計の中でも地元の町会や自治会の意見を聞きながら、考え方をまとめていきたいと思うので、改めて調整をさせていただきたい。(中央区環境土木部)

《議事(2)》

⑥車での来場について、一丁目、二丁目の道路に駐車等されることが無いようにお願いしたい。

⇒承知した。(東京都都市整備局)

⑦1点目、イベントには何人くらいの参加を想定されているか。

2点目、どのエリアの方が参加される想定か。

3点目、参加された方がどのエリアから来たかなど、イベントの調査・分析される予定はあるか。

⇒1点目の来場者数の見込みについて、4千～5千人くらいの方に来ていただけるものと推計している。会場は1万人程度の受け入れが可能と考えている。混雑で大変になるというほどではないと思うが、当日混雑して危険な状況になることも念頭において危機管理含めて万全の対策をとっていく。

2点目のどのエリアの方が来られるかだが、基本的には中央区内への周知を重点的に実施し、新聞の折り込みチラシや区立小中学校配信メールを行う。また、配信地区を絞ってLINEによるデジタル広告も予定している。晴海フラッグの購入予定者にもイベントの案内は周知をさせていただいている。

3点目、どこからどのくらいの方が来たかを調査する予定はない。(東京都都市整備局)

⑧満足度などをフォローすることは考えているか。イベントがどうだったか等の検証は行うか。(会場でアンケートを取るのか。)

⇒イベントの効果測定的な意味でのアンケートは予定している。実施方法は検討中である。(東京都都市整備局)

《その他》

⑨皆さんへのお願いだが、11月18日(土)午前には月島第三小学校で防災訓練を行うので、本日も集まりの町会や自治会の方にもぜひご参加いただきたい。なぜこの話をするかというと、

防災を考えた時に、実際に防災拠点がきちんと機能するか心配だからである。晴海のまちは、最近開発されて、耐震的には安全な建物が多い一方で、高層マンションが多いので、いったんエレベーターが止まってしまった場合、電気も止まったなどとなれば長期間にわたってエレベーターが止まる危険性がある。従来、在宅避難と言ってきたが、本当に在宅避難で大丈夫かを考えた場合、高層部にお住まいの方が外出先から帰ってきたときに本当に20階や30階まで階段で上がって自宅に帰れるのかという、必ずしもそうではないだろうと思う。在宅避難は基本ではあるが、マンションの高層部に住んでいる方の場合は、自宅に戻らず避難所に来てしまうかもしれない。または、避難所にはいかないが、マンション下層の共用部に居たいという人が出てくるかもしれない。想定を上回る避難者を受け入れながら、防災拠点を機能させるというのは大変なことである。区の職員も防災拠点に行くが、全てをカバーできるわけではない。発災直後に機能的に職員を配置できるかもわからない。避難所をだれが動かすかと言ったら、一番目は地元の方になる。防災拠点に資材はあるが、鍵を開けて防災資材を出して、避難所として開設するには、地元の方にもやってもらわないとできないと考えている。防災倉庫の鍵の場所や、どんな物資がどれだけあるのかは、ある一定の方だけ分かっていると思うが、だれが分かっているのかは避難してきた人には分からないと思う。また、自分のマンションの中に残っている人と、マンションに戻ってくる人との連絡をどういうふうにするのかを試してみたことはないのはいか。防災拠点には発電機や照明機器も置いてある。蓄電池もあり、皆さんのスマホの充電もできるようにしている。しかし、発電機をどう動かすか、蓄電池をどう使うかなどを地元の方に知っておいていただかないと、実際には困ることになる。電気やガスが止まったときにかまどベンチを使う方法があるが、どうやって開けたらいいのか。だれかが知っていればいいということでは困ると思う。すべての自治会からある程度人数を出していただき、発電機を使ってみたり、かまどベンチでお湯を沸かしてみるなど、地域の方は知っていただかないと困るので、体験してもらいたい。来年晴海フラッグが開業するが、開業後は防災拠点が2つに分かれることになる。一丁目、二丁目の方は月島第三小学校で、三～五丁目の方は晴海西小中学校が防災拠点となる。地元の方に今ある防災資材を使いこなせるようになってもらうために防災資材の組み立てをやらないといけないと思っている。防災拠点運営委員会委員長を中心に詳細を詰めているところだが、すべての自治会から今回の防災訓練に参加いただきたい。若い人たちも練習しておかなければならないので、晴海中学校の1、2年生にも参加してもらうことになっている。来年以降も訓練を毎年やらせてもらうので、参加いただきたい。区も頑張るが、地元の方も少なくとも5～6人、ちゃんと知っている人がいないと回らない。次の世代も分かるようにやっていく。今まで区でやってきた防災訓練は区民の方はお客さんのような形だったが、これからは今ある資材を使いこなしていただき、その上で足りないものは要求してもらい、しっかり防災ができるようにしたいので、全町会、自治会の方に参加していただき、ご協力をお願いしたい。(中央区副区長)

以上